広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	ハムレットの比喩について〈特集 比喩表現〉
Author(s)	大庭, 拓郎
Citation	広大言語 , 8 : 8 - 19
Issue Date	1968-12-10
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00046287
Right	
Relation	

『イリアス』に於て溢るるばかり豊かに示されている造形的姿態，また自然を表現する驚嘆すべき言語芸術に比すれば，ドイツの英雄叙事詩はあまりに不手際であり，文体は単調にして精彩を欠くうらみはあろう」（「ドイツ中世叙事詩研究」，相良守峯著，郁文堂出版）――まさに，この英雄叙事詩は，もし登場人物の性格の内面より湧き出る強力な意欲の発動による悲劇性への高まりが全編を貫いていなければ，変化に富まない文体や変わりばえのしない表現形式のため，読者を退屈させてしまうだろう。この叙事詩に見られる５０の比喩表現もその殆んどが，豊富な表現手段を知る現代人にとっては，新鮮味に富まないきらいはある。その辞句は決して絢爛美麗なものではなく，語彙は貧弱である。従って，感情のこまやかなひだやしっとりと心を把むような情景描写は見られない。森は常に grün であり，朝は常に kühl であり，泣き声は殆んど城や館や街がどよめくばかりに激しいと表現される。

しかし同時に，この英雄叙事詩の叙述は，その比喩表現も含めて，古代ゲルマン人の生活そのもののような素朴で健康で原始的な表現と見做すこともできる。ここには虚飾の表現はなく，虚弱な叙述は見当らない。なるほど表現は荒削りであるが，そこに却って荒削りの有する生々しさと力強さを見る。フン族のもとへ，死の国へ旅立つ勇士らとその妻子との別離をたゞ一句に叙して，beidenthalp der berge weinde wîp und man. 1522（山の両側で女も男も泣いた）。このぶっきら棒な，しかし力強い表現に感動を覚えるほどに，古代ゲルマン人の素朴な感情と健康な魂の中にはいり込んでゆこうとする気構えのない読者にとっては，この英雄叙事詩のもつ脈動は伝わってこないだろう。「火のように赤い」の火は，電灯をもっているわれわれ現代人の「火」とは全然別の「赤い火」なのである。この観点から der Nîbelunge Nôt の比喩は考察しなくては，その比喩の意味深さは把握できないだろう。

ハムレットの比喩について

大　庭　拓　郎

☆　本を読んでいると，その作者独特の比喩的表現が出て来て大変興味深いもので，特に格言などには，動物の持つ特性などを引き合いに出して表現されていることが多いようである。日常生活の会話の中にも，いろいろな動物が登場してくる。先日ＮＨＫの学校放送の Listen to me!（Ｓ．４３．５．２２．放送）の中に次の様な会話があった。

Don : What are we having for dinner, Mom?

Mother : Meat loaf and baked potatoes, Don.

Don : That's my favorite dinner.

I could eat a horse tonight.

Can I have another glass of milk ?

大変お腹がすいてしまって何でも食べられるということを「馬だって食べられるさ」のように表現するらしい。日本語では，はたしてこんな時，どんな動物が登場して来るのだろう？

☆ 比喩には，the curtain of night （夜のとばり），the ocean of life（生死の海）などのように，「A is B」の如く，直接Bの属性をAに移して叙述する metaphor （隠喩）と creep like a snail （かたつむりのように，のろのろと歩む），go along like blazes （奈落の火炎のように勢いすさまじく駈ける），as poor as Job （ヨブのように貧しく），as dry as dust （ほこりのようにかわいた）のように比較する対象を表面に出して，「A is as ～ as B」とか「A is like B」のような形式をとる Simile （直喩）とがあるとされている。更にSimile の中には「A is like B」の形をして単に事象をはっきりと述べることを目的とする descriptive simile （記述的直喩）と「A is as ～ as B」の形式をとり，その事象の与える印象を強調することを目的とするintensifying simile （強意的直喩）とに大別することが出来る。日常生活の中に，このような比喩がよく用いられているが日本語と英語等の表現を比較してみると，それぞれの国民の発想法が理解出来，大変興味深いものである。格言とか名言とか言われているものの中には，この比喩が上手に用いられ簡潔に表現されている。

次の言葉は，平塚雷鳥の有名な名言である。

……「原始女性は実に太陽であった。真正の人であった。今，女性は，月である。他に依って生き，他の光によって輝く，病人のような青白い顔の月である。」

☆ 日本語に「犬死にする」という言葉があるが英語でも同じように die a dog's death と言うらしい。試みに辞書で dog を調べてみると次のような句が見つかった。

。die a dog's death.

die like a dog. （犬死にする）

- treat a person like a dog. （人をまるで犬扱いにする）
- go to the dogs. （零落する）
- lead a dog's life. （みじめな暮しをする）
- throw to the dogs. （無価値なものとして投げ捨てる）―― 従って，
- He has not a word to throw to a dog. （あの男は，ひどく無口である）という意味となる。

☆ 「どしゃ降り」ということを英語では It rained cats and dogs と言うが，これは大変理解に苦しむ表現であるが，これは北欧の神話では，ネコは天候に非常に影響があるものと考えられていて，「ネコが常になくはねまわるとき」イギリスでは The cat has a gale of wind in her tail. と言うそうで，嵐に乗り回る魔女は，ネコの形をしていると言われており従ってネコは豪雨の象徴となっている。そして犬はオオカミ同様「風の印」とされており，嵐の神 Odin の従者であって，古いドイツの絵画では風は犬またはオオカミの頭で表わされていて，犬は暴風雨の象徴となり rain cats and dogs のような表現が生まれたというわけである。

☆ Every dog has his day （どんな犬でも盛時はある）という格言があるが，Hamlet を読んで見ると Shakespeare はあまり犬は好きではなかったようであまりよく書かれてないで，軽蔑的表現の時に登場して来る。

Hamlet : For if the sun breed maggots in a dead dog,
being a god kissing carrion - Have you a daughter?
つまり，もし太陽が犬の死骸に蛆をわかすとすれば，腐った犬の尻っぺたを日の御子がおなめになるわけになる。―― お前，娘がおったな？ Act II.SC.ii.L.181

Queen : How cheerfully on the false trail they cry!
O'this is counter, you false Danish dogs!
まあ，得意になって，吠え立て獲物の足跡を嗅ぎちがえているくせに，見当はずれだよ，恩知らずのデンマークの犬め！ Act IY.SC.V.L.109

☆ Move matter with less art. と言うことで，この辺で本論に入る。Shakespeare は実に多くの格言を知っていたとみえ Hamlet の中にも沢山の格言が出て来る。

ここでは Hamlet の中の metaphor と simile 的な表現についてのみ続ける。

◎ 驚く様子

Horatio : And then it started like a guilty thing
Upon a fearful summons.

まるで罪人が怖ろしい呼出しを受けたときのように急に はっと驚いた。

Act I. SC.i.L.148

◎ 親しい間柄

Hamlet : The head is not more native to the heart,
The hand more instrumental to the mouth,
Than is the throne of Denmark to thy father.

デンマーク王とお前のお父さんとの間柄はな，頭もこれほど心臓に近くはあるまい，手もこれほど口の言うままにならぬだろう。 Act I.SC.ii.L.47

◎ 優 劣

Hamlet : ……That it should come to this!
But two months dead! nay, not so much, not two;
So excellent a king, that was, to this,
Hyperion to a satyr;……

あんなに すぐれた王が今の王にくらべれば それこそハイペリオンとサチールほどに違う。

Act I.SC.ii.L.137

◎ 月とヌッポン

Hamlet : —— married with my uncle,
My father's brother ; but no more like my father
Than I to Hercules; ——

おれとヘラクレスとが違うほども違う。 Act I.SC.ii.L.153

◎ 獣の涙

Hamlet :
—— Frailty, thy name is woman! ——
A little month or ere those shoes were old
With which she follow'd my poor father's body,
Like Niobe, all tears; —— why she, even she ——
O God! a beast, that wants discourse of reason,
Would have mourn'd longer ——

あんなに泣きぬれて，その母が，そうだその母が あゝ，道理をわきまえぬ獣さえ，いましばらくは，悲しんだであろうに，—— Act I SC.ii.L.146

◎ 仇の言葉

Hamlet :

I would not hear your enemy say so ———

そんなこと君の仇が言ったって本気にしないぞ ——— Act I.SC.ii.L.170

◎ 天国の仇

Hamlet :

——— would I had met my dearest foe in heaven

Or ever I had seen that day, Horatio!

いっそ天国で憎い仇と出会ったほうがましだ。こんな目にあうくらいなら，ホレーショ君。

Act I.SC.ii.L.179

◎ ザ・ピーナッ

Hamlet :

I knew your father ;

These hands are not more like.

確かにお父上のお姿でございます。

この左右の手のように，いささかも相違がありません。

Act I.SC.ii.L.212

☆ 「恋愛は小説，結婚は歴史」という言葉があるが「青春の愛」というものは光りはするが肝心の熱のない炎のようなものでパッと消えてしまう。だから乙女は注意して，月にさえ その肌を見せないようにしなさいと Ophelia に忠告しているが現代では「スピーチとスカートは短いほどよい」とか，「スカートが短くなると戦争が起る」とかおもしろい説も生まれている。「歴史はくりかえす」とも言われるので近い将来に「スピーチとスカートは長いほどよい」という名文句が生まれて来るかもしれない。

◎ ハムレットとスミレの花

Laertes :

For Hamlet and the trifling of his favour,

Hold it a fashion and a toy in blood,

A violet in the youth of primy nature,

Forward, not permanent, sweet, not lasting

The perfume and suppliance of a minute ;

No more.

それからハムレット殿下のことだが，殿下の気まぐれなご好意は結局，若さのさせる一時の浮気だと思わなきゃいけないよ。早咲きのすみれの花のようなものさ，言ってみれば，咲くのは早いがすぐ萎んでしまう。見た目には綺麗だが永もちはしない。あれは ただ ほんの束の間の香り，一瞬の慰めだ，それだけだよ。 Act I.SC.iii.L.5

☆ さて，このあたりで話題を変えて simile の A is as ～ as B 形式の表現について続けて見よう。

◎ ——as pure as grace——
　 ——as infinite as man may undergo——

Hamlet :

Being nature's livery, or fortune's star,

Their virtues else, be they as pure as grace,

As infinite as man may undergo,

Shall in the general censure take corruption

From that particular fault.

先天的なものにせよ，後天的なものにせよ，そんな場合には，その人が，どんなにすぐれた美点を持っていても，また，どんなに数々の美点があったにしても，前に言った たった一つの欠点のために世間ではそれが全く認められなくなるのだ，小さな汚点のために，すぐれた本質があやまられかえって非難を受けるのだ。 Act I.SC.IV.L.33

◎ ——as hardy as the Nemean lion's nerve——

Hamlet :

My fate cries out,

And makes each petty artery in this body

As hardy as the Nemean lion's nerve.

おれの運命が呼んでいる

身体じゅうの筋を一つ一つふくれあがらせネメヤの獅子の筋肉のようにひきしぼらす。

Act I.SC.IV.L.82

◎ ——as swift as meditation or the thought of love——

Hamlet :

Haste me to know't, that I, with wings

As swift

As meditation or the thoughts of leve,

May sweep to my revenge.

さあ，早く話して下さい。ぼくはまっしぐらに復讐に飛んで行く，空かける思想や恋の翼よりもっと速く。　　Act I.SC.V.L.29

◎ ——as swift as quicksilver——

Hamlet : ..... whose effect

Holds such an enmity with blood of man,

That swift as quicksilver it courses, through

that natural gates and alleys of the body, ...

水銀のようにたちまち五体の隅ずみありとあらゆる筋を流れめぐって.....

Act I.SC.V.L.66

◎ ——as a stranger give it welcome——

「未知の客人」に対してとやかく詮索するのは失礼千万で心から迎えるべきだということから「そのままそっとしておく」の意味に用いられる。

Hamlet :

And therefore as a stranger give it welcome.

There are more things in heaven and earth, Horatio,

Than are dreamt of in our philosophy.

だからそのまま何も訊かずにおいてくれ，なあ，ホレーショ，この天地の間には，われわれの哲学ではとうてい考えおよばぬことがたくさんあるのだからな。

Act I.SC.V.L.167

◎ ——as oft as any passion under heaven——

Polonius :

Come, go with me. I will go seek the king.

This is the very ecstasy of love,

Whose violent property fordoes itself

And leads the will to desperate undertakings

As oft as any passion under heaven

That does afflict our natures.

さあ，いっしょに来い。さっそく陛下にお目にかからねばならない。これはまさしく恋に気が狂ったのだ。一度こいつに，とりつかれたら最後，たちまちのうちに身を滅ぼさにやならんのだ。

およそ人の心を苦しめる激情は数えきれんほどたくさんあるが，そのどんな奴にも負けんくらいこいつはひどく無茶をやらかす奴じゃ。　Act Ⅱ.SC.i.L.101

◎ —— as proper to our age as it is common for the younger sort ——

Polonius :

By heaven, it is as proper to our age

To cast beyond ourselves in our opinions,

As it is common for the younger sort

To lack discretion.

どうも，まったく老人というものは，すぐ詰らんことにも余計な取越し苦労をする。若い者はちょうどその反対じゃ，どいつもこいつも皆な無分別な奴ばかりじゃ。

Act Ⅱ.SC.i.L.113

◎ —— as much modesty as cunning ——

Hamlet :

But it was — as I received it,

and others whose judgements in such matters cried in the top of mine — an excellent play, well digested in the scenes, set down with as much modesty as cunning.

しかし，おれの考えでは，いやおれなんかよりはもっと権威のあるこの道の通人たちの評判もそうだがね，あれは立派な作品だよ。場面も場面構成も，よく整っているし，作者の筆もひきしまって，なかなか，大したものだった。　Act Ⅱ.SC.ii.L.448

◎ —— as hush as death ——

A silence in the heavens, the rack stand still,

The bold winds sheechless, and the orb below

As hush as death, anon the dreadful thunder

Doth rend the region ; ——

大空おし黙り，空駆ける雲はとどまり，吹きまくる風も声をひそめ，大地もまた死のごとく静まりかえる時，突如として雷鳴の天地をつんざくごとく—— Act Ⅱ.SC.ii.L.491

◎ —— as chaste as ice ——

—— as pure as snow ——

Hamlet :

If thou dost marry, I'll give thee this plague for thy dowry : be thou as chaste as ice, as pure as snew, thou shalt not escape calumny.

もし，お前が結婚するなら，持参金代りに，いいか，この呪いを贈ってやる。たとえ，お前が氷のように清浄で，雪のように潔白であろうと，世間の悪口はまぬかれぬぞ。

Act Ⅲ.SC.i.L.138

◎ —— as foul as Vulcan's stithy ——

Hamlet :

…… It is a damned ghost that we have seen,
And my imaginations are as foul
As Vulcan's stithy.

ぼくらの見たあの幽霊は悪魔の仕業だったのだ。そして，ぼくの今までの想像はヴァルカンの鉄砧のように汚らわしいものだったのだ。

Act Ⅲ.SC.ii.L.84

◎ —— as easy as lying ——

Hamlet :

'T is as easy as lying, govern these ventages with your fingers and thumb, give it breath with your mouth, and it will discourse most eloquent music.

わけはないよ，嘘をつくみたいに。この穴をこう両方の指で押えて，口をあてて，息を吹きこめば，ひとりでに好い音色が出る。 Act Ⅲ.SC.ii.L.365

◎ —— as black as death ——

king :

O wretched state! O bosom black as death!

あゝ情けない。死のように暗いこの胸。　　Act Ⅲ.SC.iii.L.67

◎ ——as soft as sinews of the new — born babe——

King :

……Help, amgels! Make assay :

Bow, stubborn knees ; and, heart with strings of steel,

Be soft as sinews of the new-born babe!

お助け下さい。天の御使？　やってみろ，かがむのだ，固い膝め，さあ，鋼のたがでしめられた心め，柔かになるのだ，赤子の筋のようにしなやかになれ。

Act Ⅲ.SC.iii.L.71

◎ ——as damn'd and black as hell——

Hamlet :

Then trip him, that his heels may kick at heaven,

And that his soul may be as damn'd and black

As hell,

その時こそ飛びだすのだ。斬り倒すのだぞ。まっ逆さまにこの世から地獄の闇の中に墜落して，永却の苛責を受けさせるのだ。　　Act Ⅲ.SC.iii.L.94

◎ ——as false as dicers' oaths——

Hamlet :

Such an act

That blurs the grace and blush of modesty,

Calls virtue hypocrite, takes off the rose

From the fair forehead of an innocent love

and sets a blister there, makes marriage-vows

As false as dicers' oaths ;

何をした？あなたは女の慎みぶかさをどろ足でふみにじり美徳を偽善呼ばわりし清らかな恋人の白い額からバラの飾りをむしり取って，そのあとへ娼婦の極印を押し，夫婦の堅い契りをも，博奕うちの誓い同様反古にしたではないか。　　Act Ⅲ.SC.iV.L.45

◎ ——as mortal as an old man's life——

Laertes :

O heavens! Is't possible a young maid's wits

Should be as mortal as an old man's life?

ああなんということだ，あんなに若々しい処女の心が，老人の命のように こうまで はかないとは！　　Act IV.SC.V.L.159

◎ ——as white as snow——

Ophelia :

His beard was as white as snow,

all flaxen was his poll, ...

ひげは まっ白，雪のよう，

頭も まっ白，麻のよう。　　Act IV.SC.V.L.192

◎ —— as much speed as thou wouldest fly death——

Horatio :

Let the king

have the letters I have sent, and repair thou to me

With as much speed as thou wouldest fly death.

ともかく別封の手紙が王の手にとどくように取りはからってくれ，そして大至急ぼくのところへ駈けつけて来てほしい。　　Act IV.SC.Vi.L.23

The sharks watched us as cats watch mice.

とか She collected stamps as bees colle ct honey.

などのような月並な比喩は英語のみならず日本語にも，他の言語にも見られるものであるが，中には，どうして そのような 表現になるのか理解出来ないような，独特の比喩に出会うことがある。

この点格言にも同じことが言えるが，それはその国独自の生活習慣等に関係して来るので我々外国人には理解出来かねる。しかし，やっと その発想法が理解出来たり，出典が見つかったりすると本当に うれしい。まさに５００万円の宝クジに当選するだろう時に味えるだろう喜しい気持である。 Shakespeare だったら，こんな気持をどんな風に表現するだろうか？

まさに「鬼の首を取った」ような痛快さである。

参考書

o Hamlet with introduction and notes by Toshikazu Oyama

——— Shinozaki Shorin ———

o ハムレット : 三神勲訳 : 筑摩書房

o 英米故事伝説辞典 : 井上義昌 : 冨山房

o 英語学辞典 : 市川三喜編 : 研究社

< The end >

——— S.43.8.28. (水) ———

古代英語における kenning
——— その機能について

宮 本 美枝子

古代英詩を特徴づけるものは，形式的な面，内面的な面に於いて数多くあるが，なかでも独特の韻律を構成した頭韻法 (alliteration) と代称 (kenning) が最も目立った存在である。小論はこのうちの kenning の機能 —— 特にその比喩的機能に重点を置いて —— についての今までの研究を私なりにまとめたものである。

Christine Brooke-Rose はその著 A Grammar of Metaphor に於いて時代的差別によって隠喩を分類しているが，その中で古代英語のメタファーは名詞を中心にし，中世では動詞的であると述べている。そしてこの名詞的隠喩に kenning を分類しているのである。

> "This means that most metaphors, at least those most easily noticed, are usually nouns, not only as epithets but as kennings (the metaphorical compound-noun)." 〔註1〕

しかし注目すべきことは，metaphorical compound-noun' という言い方で理解できるように，彼女は形式的な面から眺めているのであって，果して kenning が隠喩として機能するのかどうかは疑われていない。如何に機能するかという事に関しては，問題は残るのである。

この問題の解決を与えてくれる鍵になるものとして，kenning の起源の問題がある。kenning がいかなる要請に基づいて生れたかを説明する事は，その機能の一端を明らかにすることになるからである。

kenning の起源については，タブー説が一般に認められているようである。 Herbert